

平成30年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 教授

氏名: 森丘 保典

	研究課題	競技スポーツのコーチング実践における効果的な量的・質的情報(データ)の収集・分析および活用方法に関する研究
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>研究目的 コーチング及びトレーニング現場において収集した量的、質的情報(データ)を効果的に活用するためのデータ収集及び分析方法を検討するための基礎的資料を得ることを目的とする。特に、国内一流競技者の若年期以降の競技パフォーマンスの変遷および育成・強化のプロセスについて、量的・質的研究手法を用いて明らかにしながら、効果的な競技者育成・強化システム(モデル)の構築に資する基礎的資料を提示することを目指す。</p> <p>研究概要 ①各種競技会において映像情報を中心とするパフォーマンス分析を行い、量的・客観的情報(データ)を収集・分析する。 ②競技者のスポーツ歴(競技ヒストリー)について、半構造化面接法などを用いたインタビュー調査を行い、質的・主観的情報(データ)を収集・分析する。</p>
	研究成果	<p>・日本トップレベルの400mH選手のレースパターン分析を行い、その傾向を明らかにするとともに、選手やコーチにデータをフィードバックすることによって、トレーニングやコーチング実践に活かすことができた。</p> <p>・若年期のアスリート育成に関する国内外の動向について検討し、中長期的な視点での競技者育成の重要性および育成指針の策定および施策の展開などに向けた情報として整理し、公表することができた。</p>
研究業績	<p>・論文および著書</p> <p>著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	<p>①著書: 森丘保典「日本スポーツ協会公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト(理論編・第1章・概論)」、日本スポーツ協会、2018年4月、132～135ページ。 ②著書: 森丘保典「中学校部活動における陸上競技指導の手引き(第2章: 発育発達期における望ましい運動部活動のあり方)」日本陸上競技連盟、2018年12月、132～135ページ。 ③著書: 森丘保典「健幸華齢のためのスマートライフ(健幸華齢の実現に向けた日本スポーツ協会の役割と課題)」、日本スポーツ協会、2019年3月 ①論文: 杉田正明、森丘保典、山崎一彦、尾縣貢「日本陸上競技連盟におけるキャリア支援の取り組み」、体育の科学、68巻12号、894～899ページ、2018年12月 ②論文: 森丘保典「スポーツと君たち・オリンピックパラリンピックとあなた」、体育科教育、67巻3号、74～75ページ、2019年3月 ③論文: 森丘保典「日本陸上競技連盟・競技者育成指針の策定プロセスについて—中長期的な視点での競技者育成の重要性—」陸上競技学会誌、2019年3月 ④澤野大地、森丘保典、小山裕三「陸上競技男子棒高跳におけるトレーニングの創発: 準備期のトレーニング内容および方法の変化に注目して」スポーツ科学研究、2019年3月</p>
	<p>・学会発表等</p> <p>発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	<p>①学会発表: 森丘保典「日本陸上競技連盟における競技者育成指針の策定プロセスについて(シンポジウム②: ジュニア期における望ましい競技者育成の在り方とは)」日本陸上競技学会第17回大会、2018年11月、桐蔭横浜大学</p>
	<p>・その他</p> <p>*学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等</p>	<p>①報告書: 森丘保典、貴嶋孝太、千葉佳裕、櫻井健一、杉田正明「日本一流400mハードル選手のレースパターン分析—2018年の国内主要大会について—」、陸上競技研究紀要、14巻、2019年3月 ②報告書: 森丘保典、須永美歌子、貴嶋孝太、真鍋知宏、山本宏明、酒井健介、杉田正明「2018年全国高等学校総合体育大会入賞選手のアンケート調査—相対年齢効果や運動・スポーツ歴に注目して—」、陸上競技研究紀要、14巻、2019年3月 ③報告書: 森丘保典、青野博、鈴木なつ未、石塚創也、山田早智子「東京オリンピック記念体力測定(体力測定について)、日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告、2019年3月 ④報告書: 森丘保典「発育期のスポーツ活動のあり方に関する研究—アスリート育成モデルの構築—(米国競技者育成モデルの紹介、日本陸連競技者育成指針の策定プロセスなど二編)」日本スポーツ協会スポーツ医・科学研究報告、2019年3月</p>